

公開授業(分野): 教育学概論 (共通科目/専門科目)

対象学年(履修区分): 1~2年生 (必修/選択必修)

公開日時: 2019年7月4日(木)3限、2019年11月15日(金)2限

■公開した授業の該当科目全体における位置づけ・進め方や工夫した点

本授業は、教職課程の初めに、教職課程科目全体を概観するような基本的で広域な授業になります。教育の基本的概念は何か、また教育の理念はどのようなものがあり、教育の歴史や思想について、それがどのように現れてきたのかについて学ぶとともに、これまでの教育の営みがどのように捉えられ、変遷してきたかを理解する授業です。そのため、本授業の指導としては、1~2年生の、多くは教職免許を取るために教職課程科目を受講する最初の科目であるので、自ら学ぶ力を育成するためのアクティブラーニングを意識し、教育について一人ひとりが考え、参加できる授業時間を創ることを目指しています。教職課程全体について理解してもらいたい授業になっておりますが、それだけでなく、本授業を通して、これまで授業を受ける側だけであった学生に対し、授業を行う側の視点に少しでも気づいてもらいたいと考えています。教職課程を取るということは、教師になるのが前提です。本校の場合、一般の企業に就職していく学生も多くおりますが、本授業は教師になることを前提にした科目であることを自覚し、受講するように指導しております。授業者であるためには、どのような方法で、どのような知識を持ち、どのような姿勢で授業に臨まなければならないのかということも少しでも考えてもらいたいと考えています。

具体的には、授業は4部構成で行っています。

- (1) 学生によるディスカッション (2) コメントカードによる振り返り (3) 新聞読み (4) 本時の講義  
(5) コメントカード記入

それぞれについて説明すると、まず「(1) 学生によるディスカッション」では、4~5人でグループを作り、1回に1グループずつ発表します。発表の回は、自分たちの関心のある教育関係の記事を選び、レジュメを作成します。グループから全体に向けて課題を出し、意見を交流します。レジュメには以下の約束があります。

①その課題の、できるだけ新しい記事を提示する ②記事を読みやすい大きさにしてコピーを取り、レジュメの片面にする。その時、ニュースソースを明らかにする。 ③レジュメの片面に次のことを記入する。「メンバーの学籍番号と名前、それぞれ発表で主に分担された仕事」、「記事の要旨と背景」、「グループが記事を選んだ理由」、「グループがその記事から皆に考えてほしいこと」

「(2) コメントカードによる振り返り」では、前回の授業の仲間の感想を、前回のコメントカードから授業者が読んで発表します。授業内の発言で出なかった意見や、多くみられた意見を確認し、学びを深めます。大抵、ディスカッションと授業の感想とその日に読んだ新聞について書かれています。

「(3) 新聞読み」では、今を知るために、新聞やニュースを、毎日見ることを勧めています。現代の教育問題で押さえておきたい事柄について、毎週新聞を配ります。時間内に読む時間を持つことで、短い時間で早く内容を把握する訓練をします。また、感想を言う時の話し方の約束も下記のように作っています。

① 具体的(×一般論)

新聞の中のどの言葉、数字について、どのような意見をもったのか、具体的に話をする練習をしています。その際一般論を言わない約束にしています。

② 理由

なぜそれについて自分が着目したのか、理由を明確にすることを約束しています。

③ 大きな声(わかりやすい言葉)

教師に向かって話すのではなく、クラス全体の仲間に向かって意見が言えるように努力する約束をしています。授業者にとっては、一人ひとりの学習状況を垣間見ることもなります。また、次週、これを授業者が読んで聞かせ、仲間の良いところや自分の気づかなかったことを発見してもらう手がかりにします。

このたび発表した授業は、前期と後期は、別の内容になりました。前期授業公開日は、日本の学校制度が1872(明治5)年に始まり、現代まで続く歴史の中で、明治時代の日本の学校制度の始まりとその歩みについて講義しました。後期授業公開日は、近代教育学の父、コメニウスの思想について講義しました。このような教育史の講義では、前の時代とどのような違いがあるのか、他国とどのような違いがあるのか、できるだけ明確に比較して、説明することを心がけています。また、例えばコメニウスの場合、『世界図絵』が平凡社ライブラリーから今でも一般書として出版されているので、そのような本は回覧し、手に取って実感してもらうように用意しています。

教育学概論の授業は、教職課程全体を通して、教育学とはどのような分野に分けられ基礎的知識がどのようなものであるか理解するための授業です。今後の教職科目では、この授業で概観した内容の、専門分野に分かれた授業が行われるということを、授業の中で理解してもらい、大きな流れと姿勢作りを行う授業として位置づけています。

■ 参観者や研修会での意見交換を踏まえ、次年度への改善計画等

参観者から下記のようなアドバイスをいただきました。それについての改善点を→以降に記しました。

1. 考えを整理して、ある問いに対して一つの意見を出すタイプのディスカッションだけでなく、アイデアや解決策を出させるタイプのディスカッションも取り入れるとよい → レジュメの、グループの意見を入れる項目に、アイデアや解決策を具体的に記入させることを検討したい。
2. 階段教室ではない教室を使った方がよい(多数のご意見がありました) → 今の教室でも、工夫をして十分話し合いができる。講義の時間をできるかぎり長く取りたいので、講義のためには一斉授業型の教室でもよいと思う。いずれにせよ、話し合う時間と授業を聞く時間の切り替えがスムーズになるように、さらに検討したい。
3. 学生の意見に対する見解を話したほうがよい → 授業者の意見は正しいと思われがちで固定的になりやすいため、見解を述べることを避けている。しかし、必要に応じて強制力が働かないように、見解が述べられるように工夫したい。
4. パワーポイントの字が多い → 学生はノートに、パワーポイントを写すのではなく、文字を参考にしながら、自分の言葉でノートを作るように、授業最初のガイダンス時に話している。しかし、文字が多いとやはりパワーポイントに捕らわれてしまうので、もう少し要点だけのスライドを用意したい。
5. ノートを取る時間が足りない → ノートは大きな流れで、キーワードや知らないことをまとめるように指導しているが、これまで(高等学校)、ノート作りをあまりしてこなかった学生が多くいるので、ノートの書き方の指導をアカデミックリテラシーと連動させて行えたらと考えている。
6. 質疑応答する学生が限られている → 発表するのが苦手な学生もいるので、コメントカードでできるだけそのような学生のもを発表するようにしている。さらに気をつけていきたい。
7. どれも不十分になるので、授業の回で分けて、ディスカッションの日や講義の日としてはどうか → 文部科学省から指導されたシラバスに、基本的には沿って授業をしなければならないので、日に分けることは難しい。しかし、切り替えながら形の違う学習をするので、講義として進む量は少なく少しずつ進むため要点がはっきりして、教育学概論としての使命は果たしやすいかと思う。さらに内容をよく精査し、抑圧的ではないが無駄のない授業をめざしたい。
8. 「これだけは覚えておくように」という要点をはっきり明示したらよい → その回ごとに要点は少ないので、さらに強調できるように工夫したい。
9. ディスカッションと新聞提示と講義内容に関連性をもたせることはできないのか → 関連させると学生たちの自発性を制限することになるので、その回ごとには関連させないが、同じ課題が出てきたときには、講義の中で関連付けをはっきり指摘することを引き続き心がけたい。
10. 話し合ってから読んで考えた内容を、一旦持ち帰り考え整理する時間を作ったらよい → 持って帰ると次回持ってこなかったり、忘れてしまうので、授業時間内で、できるだけ頭を使わせて、できるだけ持ち帰らせないことに努めてきた。しかし限界があるので、今後は、明確な家庭学習への課題を1つ決めて、毎回持ち帰らせることにしたい。
11. 脱帽することの指導はどう考えているか → 外形的な姿勢について、これまであまり注意してこなかったので、それについても、教師としてどう考えるのかを学生たちに問うて、一緒に解決していきたい。
12. グルーピングに教員の側からの意見が必要かも → 発表のモチベーションを上げることや、1年生の友だちづくりにもなると、グルーピングは強制していなかったが、よく考えて、場合によってはこちらで操作することにしたい。

本授業は、授業の進行が学生たちの発表の遅れに左右させられることも多いので、時間をシビアに管理していきたいと思えます。常に、日常生活から教育問題に関心を持つように、学生たちを誘いたいと考えていますが、そのことで話過ぎるとまた時間が過ぎ、講義の時間を切迫してしまいます。そのようにならないためには、必死に舵を取る必要があります。講義で知識をつけることがなければ、基本的なことも把握できずに過ごすことになってしまいますので、そうならないよう授業のたびに気合を入れて、その回に果たすべき内容を死守できるよう全力で集中していきたいと思えます。もっとアイデアをたくさん盛り込んで、無駄なく学べる授業を作りだしていきたいと思えます。